

1. 授業のねらい・概要

この講義は、受講生にオープン・エコノミーのマクロ経済学を理解するために必要な基礎的な概念と基礎的な理論を説明することをねらいとするものである。オープン・エコノミーのマクロ経済学の歴史を教材の世界でその展開の過程を追ってみると、伝統的なIS-LMモデルから異時点間のマクロモデルへという大きな理論的变化が見られる。

本講義の中心テーマは、日本経済のマクロ経済循環の把握と、蓄積・投資バランス、経済収支および為替レートの相互関係を分析するための理論的な枠組みの説明に力点が置かれている。

本講義の構成もこの流れをある程度反映したものになっている。そして、この授業は、マクロ経済学の基本的なロジックを重視するという視点で、説明にもできるだけこのことを心がけるよう配慮した面もある。

2. 授業の進め方

主として、教材に基づいて講義形式で進める。授業中教材にないテーマは、その都度補って行く。可能な限り、シラバスに従って授業を行うように努める。受講生からの質問は、随時回答するつもりである。受講生が授業内容を十分理解しているか否かを確認するために受講生に質問するケースもある。

3. 授業計画

1. 世界経済とマクロ経済学	9. 生産の測定
2. 主要なマクロ経済問題	10. インフレーションの測定
3. マクロ経済学とは	11. 失業の測定
4. マクロ経済学の課題と方法	12. 対外経済活動の測定
5. マクロ経済学における目標と手段	13. マクロ経済循環の捉え方
6. マクロ経済学のデータ	14. 期首ストック
7. フローとストック	15. 期末ストック
8. 名目と実質	

4. 到達目標

開放経済における諸問題を理解できるようになること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

講義前に30分以上予習し授業を受けた後1時間いじょうの復習をすること。紹介された文献等を必ず読むこと。

6. 成績評価の方法・基準

レポート等を総合的に判断して、成績の評価を行う。100点～80点がA、79点～70点がB、69点～60点がCを合格とし、59点以下をDとし不合格となる。出席回数が講義全体の2/3以上であることを要求する。

7. テキスト・参考文献

<テキスト>ノートをとってもらおう。テキストを使用しない。

<参考文献>講義中に適時指示する。

8. 受講上の留意事項

履修条件は特にないが、平素世界の経済の動きに注目し、関心を持って欲しい。